

岡山県金融経済動向

1. 概況

県内景気は、回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、設備投資は堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移している。住宅投資も振れを伴いながら堅調に推移している。一方、公共投資は足もとでは増加しているが、基調としては低調に推移している。

県内主要製造業の生産活動は、内外需要が堅調に推移する中、振れを伴いつつも緩やかな増加傾向にある。

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続ける中で、雇用者所得は基調としては緩やかな増加傾向にある。

2. 実体経済

(1) 個人消費

個人消費をみると、底堅く推移している。

すなわち、4月の販売動向をみると、百貨店売上高は、食料品が苦戦したものの、催事等により衣料品や身の回り品が好調に推移したため、2か月振りに前年を上回った。家電販売も、大型・薄型テレビやエアコンが好調に推移したほか、パソコンも新機種発売により販売が増加したことから、4か月連続で前年を上回った。このほか、旅行取扱高では、国内旅行が個人向けを中心に堅調に推移したほか、海外旅行も団体旅行に動意がみられたため、全体では前年を上回った。

一方、スーパー売上高は、食料品、生活用品が落ち込んだため、前年割れとなった。また、乗用車販売は、軽自動車は前年並みとなったものの、普通車、小型車の販売が引き続き低調なため、全体では5か月連続で前年を下回った。

この間、主要観光地への入り込みをみると、多くの施設では天候に恵まれたほか、デスティネーションキャンペーンにより客足が好調に推移したこともあって、全体では前年を上回った。

(2) 設備投資

県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、19年度の設備投資計画(3月短観調査結果)をみると、非製造業では小売、建設、リース等を中心に小幅の減少計画にある(前年比 0.8%)が、製造業では、化学(維持・更新、能力増強)、石油・石炭製品、木材・木製品(能力増強等)を中心に増加計画となっている(同+6.7%)。この結果、全産業ベースでは増加計画となっており(同+4.0%)、年度初時点での計画としては、ここ3年間で最も高い伸びとなっている。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積(非居住用)は、足もとでは減少している(前年比:18/10~12月 24.1% 19/1~3月 16.5%)。

(3) 住宅投資

最近の県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、月々の振れを伴いながら堅調に推移している。すなわち、利用関係別にみると、持家は一次取得者を中心に堅調に推移している。また、貸家も土地資産の有効活用等の動きもあって底堅く推移しているほか、マンションについても、均してみれば前年を上回る着工が続いている。

(4) 公共投資

公共投資は、足もとでは増加しているが、基調としては低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、4月は、昨年的大型工事の反動によって「市町村」が前年を下回ったものの、「国」、「独立行政法人等」、「県」、「その他の公共的団体」が大型工事発注のほか、昨年度発注工事の支払い後ずれなどにより前年を上回ったため、全体では5か月連続で前年を上回った(前年比:3月+18.9% 4月+33.8%)。

(5) 輸 出

輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、4月の県内輸出(通関実績)をみると、アジア向けが化学、鉄鋼を中心に堅調に推移しているほか、西欧、中東欧・ロシア向けも自動車(完成車)を中心に高い伸びを続けており、全体では16か月連続で前年を上回った(前年比:3月+52.7% 4月+30.6%)。

(6) 生産・出荷・在庫

3月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の前年比は、化学が前年に大きく落ち込んでいた反動から高い伸びとなったほか、電気機械、鉄鋼なども上昇したことから、全体では2か月振りに上昇した(前年比:2月 1.5% 3月 +3.4%)。

季調済前月比では、定期修理を行った石油や輸送用機械が落ち込んだものの、化学、電気機械などで上昇し、全体では3か月振りに上昇した(季調済前月比:2月 3.1% 3月 +3.6%)。

この間、在庫指数は、輸送用機械、電気機械を中心に、10か月連続で前年を上回った(前年比:2月 +7.4% 3月 +8.7%)。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。石油化学、電気機械でも、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。また、自動車は、国内向けは弱めの動きがみられるものの、輸出向けが完成車を中心に好調なため、なお高水準の操業を続けている。このほか、耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。農機具でも低水準ながら、持ち直しの動きが続いている。また、繊維では、一部に需要持ち直しの動きがみられるが、安価輸入品との競合や海外への生産シフト等から、全体として低水準にある。この間、鉄鋼、石油精製は、定期修理によって生産水準は若干低下している。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い一部の先では、残業等による生産対応を続けている。

(7) 雇用・所得

労働需給面では、3月の所定外労働時間は前年高伸の反動もあって前年を若干下回った(前年比:2月 0.9% 3月 0.2%)が、4月の有効求人倍率は、高水準を続けている(3月 1.49倍 4月 1.48倍)。雇用面をみると、3月の常用労働者数は、退職者の増加等から前年を若干下回った(前年比:2月 1.4% 3月 1.0%)ものの、解雇者数は低水準で推移しており、雇用保険受給者数は前年を下回って推移している。このように、県内の雇用関連指標は足もとでは弱めの動きもみられるが、総じてみれば改善傾向にある。

賃金をみると、3月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回った(前年比:2月 0.2% 3月 2.4%)。

この結果、雇用者所得は、足もとでは前年を下回ったものの、基調としては緩やかな増加傾向にある。

(8) 物 価

4月の岡山市消費者物価指数(平成17年基準、生鮮食品を除くベース)をみると、家具・家事用品、生鮮食品を除く食料等が前年を上回っているが、被服及び履物、光熱・水道などが前年を下回っているため、全体では前年並みとなった(前年比:3月 0.5% 4月0.0%)。

(9) 企業倒産

4月の県内企業倒産(東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(15件<前年9件>)、負債総額(25億円<同14億円>)ともに前年を上回った。

3 . 金 融

(1) 実質預金

4月の県内実質預金をみると、個人預金では団塊世代の退職金流入もあって、前年比伸び率が若干上昇したものの、法人預金の前年比マイナス幅が拡大したほか、公金預金の前年比プラス幅も縮小したため、実質預金全体の伸び率はほぼ横ばいとなった(月中平残前年比:3月+0.6% 4月+0.5%)。

(2) 貸 出

4月の県内貸出をみると、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移しているほか、地公体向けも前年比伸び率が拡大した。一方、企業向けが運転資金、設備資金ともに伸びが鈍化したため、貸出全体の伸び率は横ばいで推移した(月中平残前年比:3月+1.6% 4月+1.6%)。

(3) 貸出約定平均金利

4月の新規貸出約定平均金利(総合ベース)は、4か月振りに前月比上昇した。一方、ストック金利(同)は13か月連続で上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111(代表)

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主要製造業の生産動向

業 種	足もとの動向
自動車	国内向けの稼働率は低下しているが、輸出向けを中心に、全体としては高操業が続いている。 国内向け生産は、小型車が一部車種の他工場への生産移管により減少しているほか、軽自動車も、他社向け供給の効果は継続しているものの、販売台数減少から生産水準を低下させている。輸出向け生産は、完成車がロシア、中東向けを中心に堅調なほか、北米、欧州向けも新型車投入等によって持ち直しており、高操業を続けている。また、KDも新車投入等から持ち直している。 この間、生産ラインでは、残業、休日出勤による生産対応を続けている。
造船	高操業が続いている。 大手先の造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業機械向け受注も堅調に推移しており、高操業を続けている。 この間、生産現場では、残業による生産対応を続けている。
石油精製	定期修理等により原油処理量および各製品の生産量は低下している。 この間、製品別の需要動向をみると、ナフサは石化メーカー向けが堅調に推移している。ガソリンは弱含んでいるが、軽油は国内需要は底堅く、輸出向けも好調。また、灯油は不要期に入り減少している。なお、重油は、基調としては減少傾向にあるが、足もとは電力向けが持ち直している。
石油化学	堅調な内外需要を背景に、全体として高めの生産を続けている。 基礎原料のエチレンは、末端樹脂需要が堅調に推移する中、高めの生産を継続している。製品別にみると、ポリエチレンは、プラスチックメーカー、自動車部品・家電製品向けを中心に需要は全体として堅調に推移しているが、設備修理に伴い生産量が減少している。塩ビ樹脂は、建設向けが堅調で、定期修理も控えているため、高めの生産を継続している。ポリスチレンは、汎用品需要が弱含む中、高付加価値製品へのシフトによって生産水準は若干低下している。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、定期修理等により幾分低下しているが、なお高めの水準にある。 製品別にみると、薄板類は、自動車・家電メーカー向けの高付加価値品が好調なことから、全体としては高めの生産水準となっている。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要は堅調に推移しているが、定期修理等により生産水準が低下している。形鋼類は、民間建設向け需要が堅調なことから、高めの生産となっている。棒鋼類は、自動車向けでは定期修理により生産水準が幾分低下しているものの、建設向けでは需要が堅調に推移しているため生産量は持ち直している。
耐火物	大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。 大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。
電気機械	全体として、高めの生産を続けている。 製品別にみると、電子部品は、液晶関連向け、携帯電話向けを中心に受注が増加傾向にあることから、高めの生産を続けている。スイッチは、携帯電話向けを中心に、新製品対応等から受注が堅調なため、高操業を続けている。デジタルビデオカメラは、新製品を中心に足もとの生産は持ち直している。
織 維	一部に持ち直しの動きがみられるが、全体としては低水準の生産が続いている。 製品別にみると、綿織物、合繊織物は、事務服向け等を中心に末端需要に動意がみられるものの、安価輸入品との競合等から、全体としては低水準の生産が続いている。また、ジーンズ、作業服は、海外生産シフトの影響などから、低水準の生産が続いている。学生服は、海外拠点への生産シフトにより生産量は縮小傾向にある。
工作機械	高操業が続いている。 NC旋盤は、自動車関連メーカー向けを中心に、海外からの受注が堅調で、高操業を続けている。また、MC(マシニングセンター)も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。 こうした状況下、生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。
農 機 具	一部では高めの生産を続けているが、全体としては低水準にある。 製品別にみると、携帯用刈払機は、欧州向けを中心とした海外需要が堅調なことから、高めの生産を続けている。一方、コンバインは、末端需要が低調なほか、端境期にあるため在庫調整を継続しており、低水準の生産が続いている。